

オンライン診療

今は、コロナの関係もあって、ネットを使ったオンライン診療が認められている。だが、患者さんの身体を直接診察しないで大丈夫か？

65歳のTさん。昨日から右手が痺れていた。ゴルフをして、地面ばかり叩いていたという。今朝から、その痺れがひどくなった。右の顔にも違和感加わった。だが、Tさんが訴える手の痺れや顔の違和感、自分で感じる自覚症状にすぎない。診察で、触っても痛みを加えても、感覚の異常は確認できない。

実は、異常があったのは、痺れや痛みなどを伝える感覚神経系ではなく、筋肉を動かす運動神経系のほうだった。握力は、右が23^{キロ}で左が35^{キロ}。右が弱い。両腕を挙げてもらうと、右腕のほうが少し下がっています。

でも、顔の運動麻痺はなさそうだ。顔の歪みはない。言語障害もないし、口笛も吹ける。だが、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査をしてみると、左の脳深部に脳梗塞が見つかったのである。

もしもこれがオンライン診療だったら、誤診の危険性が高くなる。まずは、患者さんの痺れるという訴えを、医者はそのまますまに受けるかもしれない。

右手の脱力を疑ったとしても、握力さえ測れない。神経学的検査もできないのだ。痺れを起こす病気は山ほどある。それらを鑑別するには、あまりに情報が乏しい。紹介先の診療科を選ぶことさえ難しい。

ところで、Tさんのように運動麻痺と痺れを勘違いするとか、区別がつかないひとは稀ではない。でも、そんなこと、どうでも良いのだ。ことに脳の病気は、まずは異常に気付くことが大事である。

少しでもヘンだと思ったら、できるだけ早く対面診療と精密検査を受けたほうが良い。と、語るワッシー先生。最近、ゴルフでよく地面を叩く。MRIの検査を試みようか。

（石黒修三＝いしぐろクリニック・脳神経

外科専門医…1222北國新聞掲載）